

科目ナンバー	年度・学期	時間割所属・時間割コード	開講年次	単位数	曜日・時限
KCI1-417-33-0	2020第2ターム	教養教育(A6231)	1	1	火曜4限
科目名(講義題目)			担当教員		
現代世界の形成と課題g(核兵器の歴史と未来2ー「原爆神話」の呪縛ー)			三澤純		
学修成果とその割合					
豊かな教養・・・30% 創造的な知性・・・30% グローバルな視野・・・30% 汎用的な知力・・・10%					
授業の形態	講義				
授業の方法	対面授業				
授業の目的	核兵器をめぐる歴史的事実を知った上で、20世紀の歴史を語る事が出来るようになることを目指します。				
到達目標	①「原爆神話」の形成過程とその歴史的意味を説明することができる。 ②「原爆神話」が世界的に拡散した経緯と背景とを説明することができる。 ③「原爆神話」の虚構性を明確に指摘することができる。				
授業の概要	2017年、国連で122ヶ国が賛成して、核兵器禁止条約が採択されました。同年のノーベル平和賞は、この条約採択のために、世界各国の様々な団体や個人をまとめたNGO「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)に贈られました。しかし2020年1月、人類絶滅までの残り時間を示す「世界終末時計」は、過去最悪の「残り100秒」と発表されました(前年は「2分」)。その直接的要因はアメリカのイランへの度を越した挑発行動ですが、核保有国が核兵器禁止条約を「非現実的だ」と決めつけ加盟していない状況にも大きな問題があります。世界で唯一の戦争被爆国である日本もまた核兵器禁止条約に反対しています。核兵器禁止条約は、核を「非人道的な絶対悪」とみる素朴な人間の感覚を出発点としています。そうした中、このような日本政府の態度は、果たして国際社会で受け入れられるものでしょうか?そもそも広島・長崎への原爆投下から既に74年が経過し、核廃絶の世論が地球規模の広がりを見せているにもかかわらず、なぜ今日の地球上には、人類を幾たびも絶滅させる大量の核兵器が存在しているのでしょうか?本講義で、一緒に探っていきましょう。				
各回の授業内容					
回	月日	授業テーマ	内容概略		
1		「原爆神話」の誕生	第二次世界大戦後、アメリカで誕生した「原爆神話」と『ニューヨーク・タイムズ』との関連性を検討する。		
2		「原爆神話」とトルーマン大統領	広島原爆投下に関して、トルーマン大統領が発表した声明とラジオ演説とを素材に、「原爆神話」の構造を探っていく。		
3		「原爆神話」の世界的拡散	「原爆神話」が世界的に拡散する際のキーマンであった『ニューヨーク・タイムズ』のローレンス記者の思想を浮き彫りにする。		
4		「原爆神話」の論理的構造①	現在、地球上に1万4千発の核兵器が存在している状況において、極めて重要な役割を果たしている「原爆神話」の論理的構造を、軍事的・政治的側面から検討する。		
5		「原爆神話」の論理的構造②	現在、地球上に1万4千発の核兵器が存在している状況において、極めて重要な役割を果たしている「原爆神話」の論理的構造を、経済的・宗教的側面から検討する。		
6		「原爆神話」の危機と、その立て直し①	ジョン・ハーシーのルポ『HIROSHIMA』がベストセラーとなったことで「原爆神話」が危機を迎えたことの歴史的意味を検討する。		
7		「原爆神話」の危機と、その立て直し②	軍事的・経済的側面から「原爆神話」に固執する勢力が、大きく揺らいだ「原爆神話」の補強を行ったことの歴史的意味を検討する。		
8		「原爆神話」と現代社会	核兵器禁止条約の精神に則って、核兵器廃絶を推進していくためには、私たち一人ひとりが「原爆神話」を克服していかなければならないことを確認する。		
テキスト	なし。毎回、レジュメと資料プリントを配布する。				
参考文献	西島有厚『原爆はなぜ投下されたか』(青木書店、1968年) 荒井信一『原爆投下への道』(東京大学出版会、1985年) こうの史代『夕風の街 桜の国』(双葉社、2004年) 山口彊『ヒロシマ・ナガサキ 二重被曝』(朝日文庫、2009年)				
履修条件					
評価方法・基準	学期末試験(80%)と開講期間中に実施する2回のレポート(20%)とを総合的に判断して評価します。				
使用言語	「日本語」による授業				
教科書・資料の言語	「日本語」のテキスト(講義中にプリントを配布する。)				
実務経験を活かした授業	非該当				